

一、御國船爲御用雇候節、御荷物運賃圖可被仕候。附、御雇船諸浦割符之刻、迷惑仕もの有之由候條、兼々諸浦之躰聞届、諸奉行人も相談を以可被申聞事。

一、御登米出船、其時之出船御奉行申談、諸事無滞様に可被仕候。并高松浦より本吉浦迄之間に、自然破損舟於有之は、可被致裁許事。

一、宮腰に而被召上候竹・木等、賣主手前より書付を主計・三右衛門取、其上に而相場之直段聞合、能々致吟味、直段人に爲圖買上、間尺御大工共に爲改、不破五郎左衛門方に入を立、相渡代銀無滞小拂より請取、早速可被相渡事。

一、材木・板其外何によらず商賣船着岸之刻、内證を以様子被聞届、若御用に茂可有之物候はゞ、早速會所迄可被申達候。御材木・板等相場宜時分、調置候様、折々御作事奉行可有相談事。

一、不破五郎左衛門裁許之儀、致相談儀候はゞ、萬端可被申談事。

一、宮腰御藏御材木圍番人、并所付足輕五人、可被裁許事。
一、材木改之人足、町夫遣可被申候。不足分は日用雇遣可

被申候。日用直段は、其年之御定之通に、早速可被相渡事。
一、上々御材木、御圍に入置可被申事。

一、於他國被召上候御材木間尺之儀、彼地に而調候御奉行送之通、宮腰濱に而無滞様に船改方より被請取、先年運賃定之上に三割八步増に可被相渡候。勿論不破五郎左衛門に御材木渡候儀、御大工に間尺爲致、大形上中下計記之、入帳極可被相渡候。材木請取渡人足無費様に、御作事奉行に申談、埒明がたき儀は早速寄合所に可被申聞事。

一、舟持中に餘荷懸り之儀無用之事。

一、諸役運上指引之儀、御算用場可被受差圖事。

一、他國船破損之刻荷物上賃、公儀如御定、浮荷物廿分一、沈荷物者十分一たるべき事。

一、宮腰町年寄・町肝煎、其外御用等相勤候町人之内、向後増闕又は替人有之刻、寄合所に申斷、相極次第、金澤町奉行に茂可被爲知置事。

右宮腰町方、浦方御奉行被仰付候條、可被得其意候。此外洩たる儀可有之候間、萬端無遠慮可被裁許候。自然難計儀者、早速寄合所に可被相尋候。他國之者茂入込所に候條、諸事

無油斷意得專一に候。以上。

寅十一月廿六日

前田 七郎兵衛
脇田 九兵衛
今 枝 民 部
奥 村 因 幡
奥 村 河 内
前 田 對 馬

山崎 虎之助殿

四 宮腰に積來御荷物運賃之儀 御定

覺

一、諸浦より宮腰に積來御荷物運賃、下は御材木積に遭船之並唯今迄之運賃に、四割増に可被相渡候。勿論木・竹以下、濱上計船頭仕、御圍に取候儀者船頭に被申付間敷候。以上。

寅三月廿二日